

第4回 江川流域づくり支援会議(第二期)

資料1

平成29年 9月19日

第3回会議のおさらい

「治水面から見た中流部のあり方」 田中委員

- 4ケースの中流部の断面を想定し、水理解析により可視化した結果から、ケース3「中流部の河道を拡幅及び掘削する河道改修」が望ましい。

■ 検討ケース

	上流部	中流部	下流部	荒川との合流点
ケース1	現況の地形	現況の地形	現況の地形	現在の河川整備計画で改修
ケース2				
ケース3	現在の河川整備計画で改修 (調節池+河川)	改修(拡幅+掘削) 		
ケース4		改修(拡幅+掘削+高築堤) 		

ケース3 解析結果

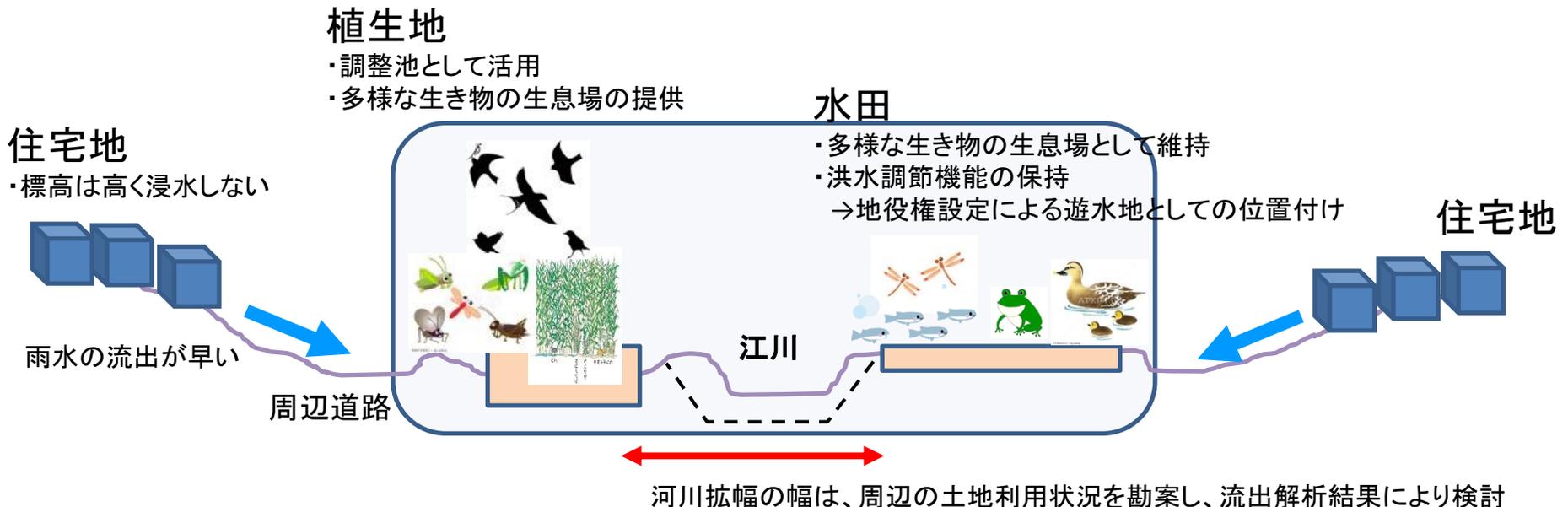


第3回会議のおさらい

「環境面から見た中流部のあり方」 藤野委員

- 江川中流部の川沿いには貴重な緑地が残存しており、主に農地(水田)として利用されている。
- 水田は遊水機能による洪水調節効果を有しており、谷地の土地利用を保持することが望ましい。

横断形のイメージ



第3回会議の総括事項

- ① 江川中流部の断面計画は、江川沿川が谷地地形であることや、築堤による内水被害の拡大を考慮し、ケース3(拡幅+掘削)を基本とする。
- ② 事務局にて、中流部と下流部のバランス、水田の持つ既存の遊水機能の保全、無被害湛水区域の増大などに配慮したより具体的な検討を進め、次回会議で議論を行う。
- ③ 江川下流部については、今後、自然環境や遊水機能の保全に向け、公園整備の構想を含め検討していく必要がある。